

ねらい・願い

語彙の拡充を通して
自分の気持ちや考えを伝えられる子
どもの育成

書いて・書いて・書いて・書いて・書いて・書きまくりましょう。
(機会を多く持つという意味で。)

研究主題

本校児童の「書くこと」に関する研究主題と目標設定

◎ 研究提案



主題文

書けた実感と交流を土台に、相手に伝わる文章を書く力を育てる

副題：常時活動と単元学習の往還で、高学年の自信低下を防ぐ

ねらい（年度目標）

- ・5年を境に低下する「得意感」「共有志向」を回復し、全校で安定化
- ・計画→構成→語彙→推敲の小さな成功体験を累積
- ・相手意識（目的・読者）を全活動で可視化し続ける

成果指標（KPI）

Q2 得意感

+10pt

目標: 全校70%以上

計画する（いつも/たまに）

70%

目標: 全校70%以上

Q4 読んでもらうのが好き

+8pt

目標: 全校65%以上

困り感「アイデアが出ない」

-10%

目標: 選択率20%以下

研究のポイント

1. 書けた実感の積み重ね

- ・短時間・短作文で「書けた！」の実感を頻度高く
- ・視写・筆速・書き慣れで書くための体をつくる

2. 他者との交流

- ・読み手意識を持って「伝えよう」とする
- ・相手のフィードバックが思考を促進

3. 常時活動と単元学習の往還

- ・日常の書く活動を意識的に指導
- ・単元学習で実力を試す場を提供

実践の柱

① 量から質へ

まずは書く量を確保

② 交流重視

他者との相互作用

③ 継続的指導

常時活動の充実

④ 評価の可視化

成長の実感を提供

研究仮説と指導の3本柱

ICT活用を含めた研究設計と指導の3本柱

研究設計

研究仮説（if-then） ICT活用

H1 量×実感×ICT

もし短時間・高頻度の短作文や視写で「書けた！」体験を積みめば、自己効力感（Q2）が特に5年で向上する。[クラウド共有](#)

H2 交流×プロセス×ICT

もし口頭→下書き→相互フィードバックの交流を各段階に組み込めば、「読んでもらうのが好き」（Q4）と文章の質がともに高まる。[オンライン交流](#)

H3 計画×構成×語彙×ICT

もしアイデア出しテンプレートと段落型、語彙バンクを常時活動で習慣化すれば、「アイデアが出ない」「構成が難しい」の困り感が減少する。[デジタルツール](#)

ICT活用の期待効果

タブレット・クラウドツールを活用した「書くこと」の指導により、児童の主体的な学びと創造的な表現力を育成。GIGAスクール構想と連携し、デジタルとアナログの融合を実現。

デジタル作文

オンライン共有

学習分析

AIフィードバック

指導の3本柱（本校版） ICT連携



① 書けた実感を積む

1～5分短作文、視写、ミニ日記。達成の見える化（シール/メーター）

クラウド保存

バッジ



② 交流する

ペアトーク→口頭作文→下書き→ピアレビュー→共有会

オンライン

動画



③ 常時活動×単元

メモ→構成→語彙→推敲のミニスキルを日常で反復

語彙DB

自動保存

計画

アイデア出し

構成

段落整理

語彙

言葉選び

推敲

見直し

実践の流れデジタル対応

常時活動（日常）



往還



単元学習

学年段階別実践イメージ (ICT活用版)

GIGAスクール構想に連携した低学年・中学年・高学年の実践例

📱 デジタル活用



低学年（1-2年）

基礎定着期・デジタル導入



タブレット絵日記タブレット

絵を描き、音声入力で文章を追加。タッチ操作で文字の大きさ・色を調整



音声→文字変換音声認識

話した内容を音声認識で文字に変換。読み上げ機能で確認



ことばビンゴアプリアプリ

デジタルビンゴで語彙を楽しく学習。タップで選択・消去



クラウド共有クラウド

保護者と作品を共有。フィードバックは1点に絞る

重点：デジタルツールへの親しみ・書く楽しさ



中学年（3-4年）

スキル鍛錬期・ICT活用



デジタル作文PC/タブレット

段落カードをドラッグ&ドロップで並べ替え。構成づくりを学ぶ



オンライン辞書Web辞書

国語辞典アプリで意味を調べ、言い換え・比喩を記録



デジタル手紙メール

相手を決めてデジタル手紙を作成。読み手意識を養成



学習記録記録

学習ポートフォリオで進捗を可視化

重点：構成力・語彙力のデジタル活用



高学年（5-6年）

応用発展期・ICT活用



デジタルマインドマップマップ

目的・読者・要点を可視化。クラウドで共有・編集



オンライン相互評価Web

ピアレビュー2回サイクル。観点を限定した相互評価



デジタル要約要約

200字要約・見出し付け。文章の要約力を養成



公开发信発信

保護者/他学年へデジタル発信

重点：相手意識・表現力のデジタル深化

評価の視点 ICT活用

📄 評価基準

新学習指導要領（平成29年告示）の3観点に基づく「書くこと」の評価

知識・技能

「書くこと」の指導事項

- ✓ **題材設定**：書くテーマ・目的の明確化
- ✓ **構成検討**：文章の組み立て・段落分け
- ✓ **記述**：具体的な内容の記述
- ✓ **推敲**：誤字脱字の確認・修正
- ✓ **共有**：他者への発表・共有

★評価ポイント

語彙力

表記力

文法力

思考・判断・表現

「書く力」の評価観点

- ✓ **構成力**：文章の組み立て・論理性
- ✓ **表現力**：適切な語彙・言い換え
- ✓ **推敲力**：内容の改善・充実
- ✓ **創造性**：独自の視点・考え
- ✓ **論理性**：説得力のある展開

★評価ポイント

構成力

表現力

推敲力

主体的に学習に取り組む態度

「書くこと」への意欲・態度

- ✓ **意欲**：書くことへの興味・関心
- ✓ **継続性**：継続的な取り組み姿勢
- ✓ **交流**：他者とのフィードバック
- ✓ **達成感**：書けた実感・満足感
- ✓ **自己評価**：自分の文章を振り返る

★評価ポイント

意欲

継続性

交流力

評価は「一つずつ」「何度も繰り返す」が基本。書ける「実感」を味わわせましょう。 **ICT活用：タブレットで作文の共有・推敲を効率化**

すぐ始められる実践例（ICT活用版）

GIGAスクール構想に連携した常時活動3つを具体的に提示

📱 デジタル活用



朝の短作文

3～5分で完了 タブレット活用

🎯 目的

書く量の確保と「書けた！」の実感を積み重ねる

📋 流れ

- 1 当番がタブレットでテーマ提示（出来事・気持ち・理由）
- 2 1分メモ→2～3分で3文以上（音声入力可）
- 3 クラウド共有→リアルタイムフィードバック

📱 ICT活用

Googleフォームでテーマ投票、音声入力で書き始めをサポート

自己チェック1項目

句読点/主語述語



視写＋音読リレー

1分＋30秒で完了 デジタル活用

🎯 目的

筆速・語感・表記の安定を養成

📋 流れ

- 1 タブレットで良文を1分視写（学年語彙活用）
- 2 ペアで30秒音読交代（録音機能活用）
- 3 1語ハイライト振り返り（デジタルマーカー）

📱 ICT活用

Goodnote6視写記録、音声録音で発音確認

視写行数記録

誤字数記録



ペア・口頭作文→さっと書く

4分で完了 クラウド活用

🎯 目的

話す→書くの接続でハードルを低減

📋 流れ

- 1 30秒トーク（相手に伝える内容）
- 2 相手要点を20秒メモ（音声入力可）
- 3 2分で短文化→クラウドで共有

📱 ICT活用

Padletでアイデア共有、Googleドキュメントで共同編集

チェック1点に絞る

接続語/理由づけ

これらの活動は、朝の学習時間や授業の始めに3～5分で行えます。ICT活用で「書く力」の土台が育ちます。

まとめと今後の展開

2026年度計画

実施スケジュール（4月～2月のロードマップ）と期待される効果（KPI連動）

実施スケジュール（ロードマップ）

4-5月	立ち上げ／ベースライン測定 アンケート、簡易作文、校内研修	進行中
6-7月	実践① 短作文・視写導入、交流の型づくり、公開授業①	計画中
夏期	中間分析・教材整備 テーマカード、語彙リスト、評価基準作成	計画中
9-10月	実践② 単元と常時活動の往還強化、相手意識の可視化、公開授業②	計画中
11-12月	定着と質の向上 推敲1点集中、交流の深化、成果共有会	計画中
1-2月	成果測定・実践集作成 再アンケート・作品比較、実践集の作成	計画中

期待される効果（KPI連動）

Q2 得意感 +10pt 目標: 全校70%以上	Q4 読んでもらうのが好き +8pt 目標: 全校65%以上
計画する（いつも/たまに） 70% 目標: 全校70%以上	困り感「アイデアが出ない」 -10% 目標: 選択率20%以下

重点施策

短作文・視写の定着
交流活動の活性化
評価の可視化